

丹後町学校再配置検討分科会最終報告

1 はじめに

京丹後市丹後町の地域には、現在、小学校が4校、中学校が2校あります。本分科会では、児童生徒数の今後の動向や、小学校・中学校の教育内容や教育活動をめぐる諸課題、さらには立地上の環境等諸条件や耐震基準等からみた施設設備等の諸問題を踏まえ、全町域的な視野に立ち、さまざまな教育的観点から、今後の本町域における小学校及び中学校の再配置に関する事項について検討した。

2 分科会開催状況（委員数18人）

出席者数

第1回分科会	平成19年	7月12日（木）	16人
第2回分科会	平成19年	8月7日（火）	18人
第3回分科会	平成19年	10月16日（火）	14人
第4回分科会	平成19年	11月14日（水）	13人
第5回分科会	平成19年	12月6日（木）	12人
第6回分科会	平成20年	3月7日（金）	14人
第7回分科会	平成20年	5月12日（月）	11人

3 分科会における議論

（1）中学校の再配置について

- ・ 子どもの成長のためには、人数の多い中で切磋琢磨されることが大切である。部活の問題、行事の取組などを考えると、1校にした方がよい。
- ・ 少人数でも工夫次第でその特性を生かした行事や学習ができる。今まで通りの2校でよい。
- ・ 宇川中学校は生徒が少なくなっているため、間人中学校と一緒にするのがよい。しかし、その場合には、他町に比べて、大きな峠があり、距離も長いのでスクールバス等の整備の問題がある。
- ・ 現在の間人中学校の校舎は、立地条件が悪く水害に遭う。また、建

物が古いので、統合する場合には新しく建設する必要がある。中間点である竹野地区周辺へ建ててはどうか。

- ・ 間人中学校の校舎の問題を考えると、宇川中学校の校舎は、まだ新しいので宇川中学校へ統合する方法もある。
- ・ 学校は本来自分の力で行ける範囲が望ましい。地域の文化の中心・発信の場であるので、今まで通りがよい。
- ・ 宇川は保育所が統合し、保育所から中学校まで同じ顔ぶれで学ぶことになり、人間関係が心配。また、宇川中ではクラブの選択が出来ず可哀想だ。

(2) 小学校の再配置について

- ・ 竹野小学校は人数が少なく、複式の学級もある。保育所も間人保育所に行っているので、間人小学校と統合した方がよい。早急な問題である。
- ・ 子どもの減少を考えると、スクールバスを配備して、宇川地区に1校、間人地区に1校がよい。
- ・ 間人小学校が現在の位置のままであるならば、豊栄小学校は残してほしい。
- ・ 小学校はできるだけ近くが良い。近くに学校があるということは、いろいろな面で大切である。地域の学校がなくなるということは、地域の声や子どもの声が聞けなくなる。
- ・ 竹野小の統合は保護者の半数以上が賛成しており、反対は一割であった。統合の場合は現行の丹海バスでなくスクールバスを出してほしい。そうなれば統合先は間人小でなく、豊栄小という選択肢もでてくる。

(3) 地域の学校としての問題

- ・ 学校は地域の中心であるので、少ないなりの良さを生かして現状を存続する。
- ・ 学校は安全で災害時の拠点であるので、できるだけ近くにあること

が望ましい。

- ・ 学校施設は地域活動・地域の文化の拠点であるので現状がよい。

4 検討結果(議論の到達点)

- ・ 竹野小学校が間人小学校又は豊栄小学校へ統合することは、ほぼ全員一致した。
- ・ 小学校2校案については、統合して新しく学校を建てない場合には、難しい状況であり、分科会としては3校で一致した。
- ・ 中学校1校案については、統合・現状維持の両方の意見が均衡しており、どこまで行っても平行線である。

5 検討委員会への提言・要望等

- ・ 再配置に当たっては、広く広報し住民の意見を聞いて進めて頂きたい。

京丹後市丹後町学校再配置検討分科会